

第3回乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議 議事録

■日時 2016年10月25日(火) 13:30-15:30

■場所 市役所分館3階大会議室

■委員

清水義次、泉英明、藤村龍至、長谷川浩己、山田高広

企画財政部(企画課 植村)

経済振興部(商工労政課 畔柳、観光課 雑賀)

都市整備部(都市計画課 木下、乙川リバーフロント推進課 鈴木)

■事務局

乙川リバーフロント推進課 香村

NPO法人岡崎まち育てセンター・りた 天野

1. あいさつ

>主催者あいさつ

[乙川リバーフロント推進課 香村]

- ・あいさつと流れの説明

>デザイン会議の位置づけと進め方について

[りた 天野]

- ・資料1によって確認。
- ・参加された市民向けにデザイン会議の位置づけを説明。
- ・デザイン会議のメンバーの意見を聞いてもらうために会議を公開している。市民からの要望や意見を伺う場所ではない。ただしメンバーの過半数の同意を得られた場合には意見を伺うこともある。
- ・市民からの意見を伺う場所として、11月6日(日)のQRUWA FUTURE VISION(中央緑道等基本設計ワークショップ|以下 QFV)を紹介。
- ・デザイン会議、官民連携調整会議、推進会議の関係を説明。
- ・前回の市民からの提案を受けて、席次の用意、マイクの利用、発言の際に挙手を行うことを説明。

2. セントラルアベニュー(仮称|以下、CA)の設計方針について

[長谷川]

(1) 設計方針(案)の説明

- ・現時点でのCAの検討方向について説明。
- ・主要回遊動線「QRUWA(くるわ)」とCAの関係について確認。
 - ：Qの字の回遊動線を作ること、岡崎の市街地を有効に利用できる。
 - ：目標として、外に出て楽しめるまちにしていく。
 - ：各ゾーンに集客するポイントを用意。
 - ：その中の一部として、CAを設定。
- ・CAはすべて公共空間であり、豊かな公共空間を作ると同時にこれから何十年も維持管理する必要がある。
- ・維持していくためのソフトウェアを考慮して、ハードを設計することが不可欠。

- ・今回の提案は QFV の 1 回目と、過去に行われてきたワークショップを読み込んだ上での提案になっている。

>第 1 回 QFV

- ・10 月 10 日に QFV の第 1 回を開催。天気が良かったので、後半は籠田公園で実施。
- ・QURUWA 全体のなかでどういう空間なのか、どんなことが可能なのか、どんな空間なら主体的な関わりができるのか、について参加者が考え、多くの意見を交換した。
- ・今後行われる第 2 回、第 3 回の QFV を踏まえて今年度基本設計をまとめていく。
- ・第 2 回 QFV では、前回集まったいろいろな使い方のイメージについて、ある程度絞り込んだグループの中で、具体的にどのような動きのチームができるのか、詰めていくことを検討。
- ・事業者やボランティアといった関わり方を含めて、様々な立場での担い手のチームの芽を見つけた。
- ・進め方のイメージとして、具体的な担い手を見つけると同時に設計も形にしていくことで、車の両輪のように進め、具体的な使い方を検討していく。
- ・CA の中では歩いて飽きないように魅力を追求し、3 つのブロックに分けて個性をデザインしていく。

>CA のデザインに関する説明

- ①ブロックごとのコンセプトについて
- ②残すもの、撤去するものについて
- ③CA 自体が公園と緑道、道路が一体となっているので、まちの中の動線としての考え方について

①ブロックごとのコンセプトについて

>A1/A2/A3 : 公園のブロック

>A1 : 籠田公園を三つに分けた図面左側（西側）。

- ・まちのラウンジ、縁側空間と呼んでいる場所。
- ・屋根やルーバーを集積させて、まちの賑わいが被さっているイメージを検討。
- ・屋根や日よけがたくさんあり、長い時間過ごすことができる場を想定。
- ・例えばパーティーをやったり勉強したり、お母さんが子供を少し遊ばせたりすることが可能。
- ・リノベーションまちづくりとも連動し、公園とまちが繋がるインターフェースになることを期待。

待。

>A2 : 軸の中心になり、終点になる場所

- ・コモンとしての芝生広場を検討。南北に伸ばし、輪郭を明確にすることで、人の活動をシンボルにする。
- ・ステージを外すことで 365 日使える場所にし、芝生の広場が CA の北端のシンボルになることを期待。
- ・既存のイベントは違う形でできるように検討。
- ・イベント以外に使われにくいという現状と、過去の記録を見てもステージに関する意見があり、ステージのあり方を読み替えて、芝生全体がステージなることを検討。
- ・それによりピクニックに来る場所ができたり、遊具ではなく起伏を作ることでその環境を使って子供が遊べる場所になる。
- ・遊具のように固定的な何かがあるというよりは、シンプルな場所が変動していくことの方が公共のオープンスペースにふさわしいのではということ提案。

- ・東側に既存の木が多く生えていて、健康状態に問題のある木もあるが、既存の木を活かして木陰広場と芝生公園とを対にして検討。
- ・アクティビティだけでなく、緑の空間は見るべき景色になり、場所の魅力に直結する。
- ・見られる場所であると同時に使える場所であることの両方を検討。
- ・籠田公園のエントランスは、大きく変えずに検討。平和の碑も残す。
- ・芝生の広場をエントランスに近づけて、シンボル性を高めることを提案。
- ・トイレは、現時点の提案では西側を撤去して東側だけ残すか、もしくは東側を新築にして既存の東西合わせたトイレ数を確保する方向で検討。

>B1/B2：河岸段丘のブロック

>B1：Aブロックの南の場所

- ・籠田公園全体の中で含みきれない機能を入れ、籠田公園と連動し、公園の一部として提案。
- ・Aブロックよりアクティブに動ける場所としてB1を位置付ける。
- ・例えば小学校高学年や中高校生等動き方が幼児とは全然違う世代に向けて、車道空間に飛び出せないセミクローズドな空間をつくり、アクティブで動きの激しい遊びができる場所を提案。
- ・籠田公園とターゲットをすみ分けることで、全体として多くの世代を取り込むことを検討。

>B2：地下駐車場への入り口になる車路がある場所

- ・地形的には河岸段丘があり、傾斜が一番激しい部分。
- ・車路を迂回しないと地上を歩けないので、被さるように大きなテラス階段を作ることを提案。
- ・もともとある河岸段丘の地形の力も借りながらレベル差を増幅することでダイナミックな空間になり、視線が乙川に向かって広がり、CA全体を眺められる場所になる。
- ・人間は何か動くような視線の対象があると佇むことが多い。
：ニューヨークのハイラインにある階段状の空間は、車の流れる景色が見えるようになって、人が多く佇んでいる。
- ・座っておしゃべりが始まったり、何かを食べたり、偶発にイベントが起きたりといったことを期待。
- ・幅の広い空間をゆっくり登っているうちに駐車場の入り口を越え、気づいたら籠田公園に到着するという、地形に埋め込まれたような滑らかに繋がる動線を検討。
- ・バリアフリーに関しては今後検討予定。

>B3/B4：国道1号線周辺のブロック

- ・歴史的にも長く愛着のあるヒマラヤスギを最も残すべきブロック。
- ・多くの人が集う場所なので全部を残すのは難しいが、活かせる価値があるところは残すことで、歴史も組み込んでいきたい。
- ・現在、ヒマラヤスギは高さがあるのでアイコンとして目立っている。ヒマラヤスギをシンボルにすることで、国道1号線を通る県外や市外の人にも目に焼き付けてもらえるようなイメージアップにつなげる。
- ・今あるヒマラヤスギを活かし、いろいろな高さのテラスを組み込むことを検討。
：さらに広葉樹を植えることで、緑の空間を国道1号線を挟み込むように配置することを検討。
：道路を見下ろす高さや、木を見上げる高さ等、いろいろな高さに人のいる場所と緑があり、立体的に国道1号線を挟むイメージ。
- ・四天王像をB3-B4に入れることを提案。
：国道1号線を挟んで2体ずつなどがふさわしいのではないかと考えている。

>B5：人道橋、橋のブロック

- ・豊川信用金庫跡地（以下、かわしん跡地）と一体化して、橋詰広場として使うことを検討。
 - ・かわしん跡地の真ん中に大きな空間を用意し、車道をブロックすると、イベントに使用することも可能。
 - ・橋の南側から見ても、渡ってみたいという場所が作れるように提案。
- ：岡崎でこれから起ころうとしている都市のアクティビティがわかるアーバンデザインセンター等も検討。

②残すもの、撤去するものについて

- ・過去のワークショップの意見も参考にすると、籠田公園のステージは撤去する方向で検討。
- ・籠田公園のA1ブロックのトイレは視認性を下げ、死角を生み出しているの、撤去か移設を検討。
- ・平和の碑。エレベーターなどは残すことを考えている。
- ・小さな記念碑などはひとつずつ配置場所を検討しながら移設。
- ・ヒマラヤスギを全部残すのは難しいが、極力残し、活用することで場所を提案。
- ・人道橋の建設場所と近い場所の樹木は、人道橋の建設時に切らないといけませんが、橋詰への移植を計画。

③まちの中の動線としての考え方について

- ・道路の形状については、確実にバリアフリーになるように動線を計画。
- ・国道1号線の横断歩道は、そこでCAが途切れてしまわないように中央に設けられないか警察と協議中。
- ・道路と中央緑道の断面の関係は、基本的には段差をなくすことを計画。
 - ：歩車共存とし、歩行者、自転車、自動車が譲り合いながら使うことを想定。
 - ：イメージランプ、狭窄部などを設けることで、段差がなくても歩車分離ができるようにする。
 - ：心理的な操作でも大きく変えることができる。
 - ：出雲神門通りの例。車が人に気を使いながらゆっくり通る。人が威張って道を歩ける。
 - ：海外ではもっと先進的な例がある。警察協議も適切に行い、最適な解を見つけていきたい。

(2) 設計方針案に関する意見交換

[りた 天野]

- ・ここからはCAについて、QRUWA戦略におけるCAの位置づけ、各ブロックの考え方、維持管理費などいろいろな観点で20分ほど議論していきたい。

>名称募集について

[乙川リバーフロント推進課 鈴木]

- ・今年度末にCAのイメージパースを長谷川氏より提供される予定のため、来年度、CAの名称募集を検討。

>設計趣旨の補足

[長谷川]

- ・A1ブロックあたりは民間事業者の活発な動きと連動しやすい。まち中の動きを補完する形でCAのオープンスペースを民間事業者に提供できれば、両者の利益になる。
- ・国道1号線を挟んだB3とB4ブロックは、自立して立ち上げる必要がある。

- ・AブロックとBブロックでは、住民の関わり方が、事業者なのか、ボランティアなのかという点で異なり、その関わり方が見えていくと設計にも反映できる。

>周辺との関係

[山田]

- ・籠田公園の北西にビルを借りて、カフェやコワーキングスペースを営業している。
- ・籠田公園の周りの様子を見ると、デリ等のテイクアウトできる店が増えてきたが、店舗のキャパシティには限界があるため、今回提案されたラウンジやパーゴラのついた広場は、使われる可能性が非常に高い。
- ・市民の方からも「二七市通りで開かれている市で買った人が、公園で休んでいけるようになるといい」という意見がある。
- ・現状、歩道に自転車を止めざるを得ない状況があるが、駐輪場をどう考えているのか説明を聞きたい。

[長谷川]

- ・駐輪場は、現段階の設計では、大きく4箇所150台程度を確保。この台数が適切なのかどうかは今後検討予定。
：配置は、籠田公園の北側、階段テラスデッキの下。国道1号線の交差点付近、人道橋の橋詰。

[山田]

- ・現状、籠田公園地下駐車場に車を停めて買い物に来る、という流れがある。
- ・現在は、店舗の前に自転車を止めているが、今後はCAで自転車を受け入れることで、CAを基点にまちに歩けるように検討。
：150台の適切さは分からないが、箇所として多い（4箇所設置予定）のはよい。

>歴史まちづくりとの関係

[藤村]

- ・AブロックはQURUWA上の旧東海道エリアでもあるが、歴史まちづくりとの関係もあり、扱いについてはどのように考えているか。

[長谷川]

- ・旧東海道は歴史的な記憶であると同時に、まちの中の動きと非常に連動できる可能性があるため、旧東海道は有効に設計に活かしていくように検討している。
：人が流れる動線としてCAから二七市通りや連尺通りへ行くことを検討。
- ・籠田公園内の旧東海道の街道に接してコモンの広場がある、という雰囲気を作ることを検討。
- ・一方で横断歩道など活かすことが難しいB1ブロックのような場所もある。

>B5エリア、プレイスメイキングについて

[泉]

- ・CAの籠田公園側A1・A2・A3は多様なアクティビティとまちとつなげるブロック。
- ・B5ブロックは、人道橋・乙川・東岡崎駅と接しており、アーバンデザインセンター等がここに設置されることは重要だと思う。
- ・CA全体では、4つの特色のある空間がひとつに繋がる特徴的な空間になり、素晴らしい。

- ・河岸段丘と駐車場の入り口をうまく合わせて解いている点や、既存のヒマラヤスギを活かしつつ国道1号線から見せていく点も素晴らしい。
- ・B2やB4のブロックに365日イベントがなくても人が佇める場所があり、CAの両端にはイベントを呼び込めるエリアがある。この配置はバランスがよい。
- ・QURUWAの一辺として、別のエリアを繋いでいる役割もあり、わくわくする内容になっている。

>QURUWAの回遊性について

[清水]

- ・全体としては泉氏と同意見。365日、人影がある空間が計画されているのが良い。
- ・現状の中央緑道は、戦災復興のシンボルとしてつくられてはいるが、人がいない、使いにくい印象。
- ・そのような中で明快にヒマラヤスギを残す部分をつくりながら、他の場所はいろいろな層の市民の方々が様々な使い方を考えたり、想像しやすい場所になっていてよい。
- ・全体で3キロほどあるQURUWAが、本当に連帯した歩行者空間としてまちの中にできるのかということが課題。
 - ：そのためには、300m単位で集客の魅力が配置されることが重要。
 - ：CAはもちろん、連尺通り境界の面白いコンテンツの集積とつながったり、さらに西側のシビユ、りぶらとつながっていくことが重要。
- ・今後は、南側の人道橋から東岡崎駅への連結の仕方をより具体的に検討していく必要がある。

>公共資産の維持管理費について

[清水]

- ・CAエリアは乙川リバーフロント地区整備計画全体の大きな空間への再投資が行われている。
- ・今後長きに渡り、公共財として維持管理していく費用が必要になる。
 - ：現状での岡崎市の財政状況は日本の中でも非常によい状況だが、いつ財政状況が悪くなるかもわからない。CAエリアの中だけで考えるのではなく、人道橋も含めてどのように維持管理費を捻出するかを考えることが必要。
- ・パブリックマインドを持った事業者、ボランタリーマインドを持った市民の担い手を、どのように発掘できるかが大切。

[りた 天野]

- ・次回のQFVで担い手を探し、彼らが事業を行うことで利益の一部を維持管理費に回してもらうことや、また既に籠田公園で行なわれているボランティアの市民活動の活躍の場を今後議論していくことが必要。
- ・CAは今後、いろいろなことに活用できそうだとわかった。
- ・行政からみた場合、例えば歴史まちづくりとの連携はどうか。

>歴史まちづくりとの関係について

[都市計画課 木下]

- ・よく歴史的な文脈との整合性を問われるが、このエリアの大きな開発は、まず最初に江戸時代、次に戦災復興という流れのあとに、第3の投資としてCAの整備が行われるといえる。
- ・景観としては、まっすぐ続いてきた旧東海道が籠田公園のところで斜めになるが、この部分が歴史的なストーリーとして総構えと重なる。総構えの復興の計画とマッチングすれば、ひとつのエリアの価値になる。

- ・岡崎城跡の遺構調査と合わせて、調査の結果を出して終わりにするのではなく、設計にフィードバックするなど、うまく取り込みながら活かしていくことを期待する。
- ・CAのNTTの建物があるあたりに、籠田総門があったと言われている。ここに遺構が見つければ、籠田総門の復元も想定している。文化庁より、推定復元ならば可能だと言われている。
- ・岡崎は天守閣ではなく総構えの方が日本国内では評価されている。籠田総門が復元可能ならばエリアの価値が高められるだけでなく、ランドマーク・アイコンになる。

>リノベーションまちづくりとの関係

[商工労政課 畔柳]

- ・リノベーションまちづくりでは、先週第2回リノベーションスクールが行われ、若い人が精力的に取り組んでいる。
- ・籠田公園辺りを中心に、二七市通り、連尺通りとリノベーションまちづくりが続いていくので、かわしん跡地も含めて、公共空間も含めた大きなリノベーションまちづくりとして進めることを検討。

>CA沿いの集客ポイントについて

[りた 天野]

- ・300mごとに目的地になる場所があって、集積することで人が歩くきっかけになるという話もあったので、ここでいうとかわしん跡地のB5ブロックの橋詰と、籠田公園、B2ブロックあたりが300mになる。先ほどの話だとここに大きなデッキ・テラスがあるという構成。

[長谷川]

- ・B2ブロックからB3ブロックのあたりはキッチンカーが入って来るとも検討。そこに人が集まってくると、籠田公園、B2ブロック、橋詰あたりで300m間隔になる。
- ・両端の個性とともに、真ん中の個性は何か明確になってくれば、選択肢が出てくる。
- ・選択肢が出てくると公共空間として豊かになる。真ん中の部分はキッチンカーとかモバイル系が核になることを検討。

>人道橋について

[山田]

- ・集客ポイントのところで橋詰の話が出ているが、もっと大きな視点でいうと、橋が集客エリアになるはず。
- ・今回の乙川リバーフロント地区整備計画では市民の中で人道橋を作る意識が高まっている。
- ・人道橋に人をどう呼んで、そこに人がどうくるのか。人道橋に来た人がさらにその北側に楽しそうな空間があると思えば、ひとつひとつの空間がつながっていく。
- ・東岡崎駅から最初に見えるのが人道橋だと思うので、そこをどう考えるのかは重要課題。それについてはQFVやデザイン会議でも議論すべき。

>横断歩道、歩道橋について

[清水]

- ・伊賀川の方はアンダーパスでつながっているが、CAは国道1号線が大きな障壁になっている。
- ・国道1号線をどのように横断するのか。これは段階的なことではあるが、QRUWAが本当に人が回遊する時には、ストレスなく渡れるようになるものが必要。

[長谷川]

- ・清水氏の言われた内容は、フェイズごとの話。

- ・現状では中央緑道の国道1号線の横断は左右に分断されているので使い勝手が悪くなっている。
 - ・現在の警察協議では真ん中に横断歩道を通す可能性を見込める。
 - ・歩道橋の移設等も今後検討予定。
- ：歩道橋は一気に4.7mくらいあがらないといけないので、歩行者にとってストレス。立体的なテラスになっていて、歩道橋とは気づかず登り、結果、国道1号線を渡れているというのが理想。
- ・国道1号線を跨いで歩行者がたまたま行き来している感じになるのが最終理想で、いずれはそこに到達したいが、まずは歩道橋がなくても機能するものを作らないといけない。

[乙川リバーフロント推進課 鈴木]

- ・補足になるが、国土交通省と交安委員会に行ったところ、「近年まれにみる大胆な計画ですが、まちづくりに大きく寄与するし、効果があるので、しっかり協力していきたい。」と言って頂いた。
- ・将来的に国道1号線は拡幅計画がある。用地買収などもありすぐにといいわけではないが、長谷川氏のイメージを将来に繋げていけるように協力していく。

>人道橋の活用について

[泉]

- ・山田氏から人道橋の上の使い方の話が出たが、人道橋は通常の道路としての橋ではなく、公園橋という珍しいもので、道路交通法の規制を受けない活用しやすい橋であることが特徴。
 - ・人道橋の上にどういうものがあったら魅力的か考える必要があるが、一つとして定期的なマーケットがある。
- ：今回、かわまちづくりのおとがワ！ンダーランドの一環で、殿橋周辺に半常設の「殿橋テラス」という店舗を出しているが、地域内外の方から非常に評判がよく、売上も上がっている。これを人道橋のマネージメントに活かすことを検討。
- ・殿橋テラスのようなアイコンかつ、楽しめるものが常設であれば、橋上の活用も高まるのではないかな。
 - ・この公園橋をうまく活かして、楽しみ方を考えていくことも必要。
 - ・橋詰広場と緑道と公園が一体となって佇む風景があっても良い。
 - ・橋上活用には技術的な課題があるが、クリアする価値がある。

[清水]

- ・殿橋テラスは私も利用したが、たいへん気持ち良い。
- ・利用者からするとただ橋があるという考え方じゃなく、殿橋テラスのような場所ができて、そこで飲み食いができ、そこで稼いだお金で橋の維持管理費を賄うということも考えられる。
- ・お金の問題は非常に大切で、人道橋を作る時のお金は国の補助が出るとしても、維持管理は市のお金。ならばしっかりとそこで稼いで、維持管理費にまわす必要がある。
- ・人道橋は、もっと稼げそうな感じがする。

[りた 天野]

- ・観光まちづくりの方では民間がどう稼ぐかというところをやっている。稼ぐ場所を作っていくという提案でしたが、観光課としてはどう考えているか。

[観光課 雑賀]

- ・乙川リバーフロント地区整備計画についても観光産業都市の観光産業化を目指しているところ。

- ・観光産業の推進という定義は、市民の方にとってイメージが湧きにくいためアクションプランにて定義しているところ。
- ・これまでの岡崎の観光はイベント事業を重視して実施されていたが、市民によるおもてなし観光が進んでいる。
- ・今年度、観光マーケティング調査を行ったが、その中で「おもてなし観光をしたいですか？」という問いかけに対して、おもてなしをしたいという市民の回答は20%程度であった。市民も含めた観光事業者の意識もまだ低い状況である。
- ・観光産業は、宿泊業、交通、飲食物販、観光等に携わる業者がまず儲けることで経済波及効果を生み出す。それに伴って雇用が促進され、まちづくりにつながるという経済の好循環を目指しているものである。
- ・観光おもてなし事業では、岡崎キャラバン隊というフードカーをもつ事業者を50名ほど集めた組織が岡崎市内外で観光PR事業を実施している。そういった観光事業者の機運が盛り上がっている状況のため、おもてなし観光をしたいと思う市民を現在の20%からどんどん引き上げていきたい。
- ・CAにおいても、B2ブロックやB5ブロックでキャラバン隊などが出店できれば、「稼ごう」という市民意識の醸成にもつながる。ぜひそういった出店やイベントが行いやすいハード環境を整備して頂きたい。

[山田]

- ・おもてなしというところでは、これだけの公共空間があるので、事業者だけではなく市民グループのようなおもてなしの体制が必要。
- ・先ほど清水氏が言われたように維持管理費の捻出を検討することは大切。それはハードだけの維持管理費ではなく、協力してくれる市民グループへの支払いを考えた時にも税金では限界がある。
- ・市民に対して対価を払っていく循環を民間事業者で作っていくことが大切ではないか。

[りた 天野]

- ・時間がきたので、今日のこれまでの議論を第2回QFVに反映して頂くということでよろしいか。

[一同]

- ・異議なし

3. 主要回遊動線 QURUWA の各エリアのアクションプランの検討

[りた 天野]

(1) 主要まちづくりの先導事業の成果と課題の共有

- ・資料3によって確認。
- ・先ほどから話題になっているが、主要まちづくりの成果を共有。
- ・集客ポイント（＝人が集まるポイント）と、プレイスメイキング（＝心地よく過ごせる居場所作り）の設えが重要になっている。
- ・岡崎の中で、情報を共有しながら今後どのように集客ポイントの設定を進めていくのか、議論して頂く。

>かわまちづくり | おとがワ！ンダーランド

- ・例として殿橋テラスを紹介。

- ・ 普段何もない橋詰のところに仮設で足場を組み、欄干がカウンターになっているものが生まれている。
- ・ これまで、ただの通過交通しかなかったが、ひとつの集客ポイントとなっている。
- ・ 岡崎城、川に映る夕焼けなど殿橋テラスからの眺めは、眺望点としても機能。
- ・ また殿橋テラスは、川岸に降りる階段の役割も担う。
- ・ 川岸には乙床-otodoko-という額田の木を使った縁台を設置。
 - ：このような物が置かれることで人が座りだし、気持ちの良い空間ができています。
- ・ 時期が真夏だったので、川岸に日よけを作ったことでいろいろな活動がしやすくなった。
- ・ 遊具を置いたり、雰囲気を高めるためにガーランドを設置したり、イベントと合わせて居場所作りにも取り組んだ。

>リノベーションまちづくり

- ・ 籠田公園の付近に「at the table est 2015」が出店し、オーガニックで手間がかかった料理が食べられる。たまにイベントなどもやっており、市外からもお客さんが来るような集客ポイントになっている。
- ・ 二七市通りでは「wagamama house」というデリ、惣菜屋さんが入った店ができた。
 - ：近所のお年寄りから若い人まで惣菜を買いに来ており、店内でも食べられる。
- ・ 連尺通りでは、昔ガスビルだったところに老舗の煎餅屋の一隆堂が「一隆堂喫茶室」という喫茶店を出店し、2階雑貨屋、1階はカフェ。
- ・ リノベーションまちづくりをきっかけに、籠田公園周辺に目的地となる場所が集約されてきていて、地域が変わってきたという印象がある。
- ・ これらがまちの回遊性を高めるきっかけになってきているが、QURUWA 全体ではまだまだ十分ではない。

(2) QURUWA 上の集客ポイントの分布と公共空間の利用実態について

[りた 天野]

>集客ポイントの確認

- ・ 資料2によって確認。
- ： QURUWA 上に人が集まる集客ポイントがどの辺りにあるのかということと、合わせて見えそうな公共空間をまとめた地図。

>既設の集客ポイント

- ・ 東岡崎駅は、年間 1300 万人、1 日 35000 人程度が利用。
- ・ リブラは年間 140 万人、平均 1 日 4500 人が集まる集客施設。
- ・ 籠田公園も利用が多い公園。
- ・ 岡崎公園も年間 40 万人くるひとつの集客ポイント。

>新設の集客ポイント

- ・ wagamama house、一隆堂喫茶室、at the table est 2015、殿橋テラスなど。

>これから計画されていく予定の集客ポイント

- ・ かわしん跡地、籠田公園近くの古民家を改修したゲストハウス、太陽の城跡地など。
 - ： 殿橋テラスと連続して堤防道路なども使っていけないかという話が上がっている。
- ・ こういうものを含めて、どこに集客ポイントを作れるかということを議論。

>公共空間の利用実態

- ・資料2によって確認。
 - ：水色は貸し出し実績のある公共空間。
 - ：ピンク色は基本的に貸出設定がない公共空間。

＞貸し出し実績がある公共空間

- ・「5.乙川エリア」は、市の関連イベントでないと営業行為ができなかったが、おとがワ！ンダーランドを通じて規制緩和と社会実験で使えるようになった。所管は、公園緑地課、県河川課になるが、かわまちづくり協議会の承諾を得ることが必要となっている。
 - ：右岸側でキャンプをするなど、いろいろなイベントが展開された。
 - ：おとがワ！ンダーランドでは、何もない河川敷に、お店やアクティビティが入ってくることで、人が集まる場所ができた。
- ・籠田公園は、所管は公園緑地課で、周辺5つの町内会が隣接しているので、周知が必要。
 - ：利用実績としては青空クリエイターズフェスタ、夏祭り、QFVなど。
- ・二七市通りでは、貸出設定はないが、2と7がつく日に朝市が出ている。何か出店したい場合は二七市の組合に話をすれば出店も可能。
- ・シビコ西広場は、所管は都市計画課で、貸し出し設定されている。
 - ：周囲の住民の方に迷惑が及ばないことが条件。
 - ：毎月第三土曜日に朝市が行われていたり、年に一回の岡崎ジャズストリートのイベントでは本部として利用。
- ・りぶらの第二駐車場は、所管はりぶらを管理している文化活動推進課。
 - ：貸し出し条件は、コンクリートになっている高い上のところでイベントが可能。
 - ：実際はあまり使い勝手がよくないのか、条件が厳しいからかわからないが、頻繁には使われていない。
 - ：今までの実績としては、祭りの山車の展示、ジャズライブなど。
 - ：駐車場も前日から仕切れば使用可能。
- ・シビコからつながるプロムナードはウッドデッキ部分とそうでない部分で所管が分かれる。
 - ：ウッドデッキ部分は都市計画課、ウッドデッキ以外は道路維持課。
 - ：道路維持課の話だと警察協議でOKが出れば利用可能。
 - ：道路部分を使う場合は、3.5mの動線を確認するなど、条件あり。
 - ：今までの実績としてはフリーマーケットあるが、ビル風が強く使いにくい。
 - ：過去には毎日屋台のお弁当屋さんが出ている時もあり、りぶらからお客さんが買いに出てきていた。
- ・りぶらの南西側のストリート広場は、貸出条件がりぶらのホールと一体利用。
 - ：りぶらのホールは人気があるため、ここだけ使いたいという人が使えなく、ハードルが高い。

＞貸し出し実績がない公共空間

- ・CAの説明は省略。
- ・連尺通りは、11月13日に歩行者天国にするという社会実験を実施予定。
- ・伊賀川河川敷は、集客ポイントとしての常設店舗の設置は難しい。仮設ならば規制緩和のかわまちづくりの中に入れ込む。またはキッチンカーみたいな移動が前提のもので行うなどを検討。

＞回遊性を高めること

- ・指摘のあった通り、どのように回遊性を高めていくかについては集客ポイントを300mごとに設定するなど戦略を練っていく。

＞アクションプラン

- ・資料3はアクションプランの検討資料で、エリアビジョンを記載しているシート。
 - ：「2. CA エリア」は、CAで考えているビジョン

- ：「3. 旧東海道エリア」は、3-1 でリノベーションまちづくりで進んでいる。
- ：「5. 乙川エリア」は、かわまちづくりで進んでいる。
- ・今、動きがないのが、「1. 駅前エリア」「3-2. 旧東海道エリアのりぶら側」「4. 伊賀川エリア」
- ・以上を踏まえて、回遊性を高めていくための具体的な戦略を議論していきたい。

>道路空間について

[山田]

- ・お店に人が来るようにするためには、店の前の空間が使いやすいということが重要。
- ・公共空間を使っていこうとする際に、地先と繋がりのある事業者がやるか、外から事業者を呼ぶかだが、現実的には繋がりのある事業者がやる方が良いと思う。
- ・りぶらのオープンスペースについても、図書館の中に入っている事業者が自分たちが良ければ良いという話ではなく、りぶらの周りの公共空間もどうすればいいかについて考えた方が良い。
- ・りぶらから駐車場や伊賀川の方へ人を流すようにすることも検討する必要がある。

>りぶら前のオープンスペースについて

[藤村]

- ・りぶらの前のオープンスペースにはランチの時のキッチンカーが出ているという話があったが、現状はどうなっているか。

[りた 天野]

- ・私が確認したところ、日常的にりぶらの前のオープンスペースを貸し出しするということではなくて、中心市街地活性化の一環で、一定期間を運営した後で空き店舗に入るという条件で運用されていた模様。
- ・今はとくに募集もしていないし、明文化もされていない。

[藤村]

- ・りぶらの前のオープンスペースについて、官民連携調整会議の中で企画課がやっていくという話があったが、企画課ではどのように考えていますか。

[企画課 植村]

- ・りぶら周辺については、具体的な解決策があるわけではない。
- ・基本的には公民連携の考え方で、民間活力を活かしてプロムナードだけでなく、りぶら駐車場も使えないかということを考えている段階。

[山田]

- ・市が公共空間を使える事業者をいきなり判断するのは難しい。
- ・前回も中心市街地活性化整備推進機構がいて成立したように、ここも公民連携でマネジメント会社というか、間に入るような組織を考えていながら、民間投資を誘発できるような組織を考えていく必要がある。

[企画課 植村]

- ・山田さんと同意見、行政は時間がかかってしまう。民間の方がスピーディに動ける。
- ・りぶらはすでに年間 140 万の来場者がある場所なので、マッチングができる組織ができてくるとよい。小さなプラットフォームからつくることを検討していきたい。

>アーバンデザインセンターについて

[藤村]

- ・他市ではアーバンデザインセンターというところに都市再生推進法人という機構があり、そのようなものを審査する仕組みがあるが、岡崎市ではどうか。

[乙川リバーフロント推進課 鈴木]

- ・都市再生推進法人については、国交省からも道路空間を民間に使ってもらうようにという通知が出ているところ。
- ・現状では全くないが、乙川リバーフロント地区整備計画は都市再生推進法人が設置ができる状況や、機運がある。

[藤村]

- ・今、かわしん跡地にアーバンデザインセンターを設置しようという話題が出ているが、そういったことを今後議論したい。

>りぶらについて

[清水]

- ・りぶらの年間 140 万人の集客は魅力的。これが外に染み出していった、というのが課題。
- ・連尺通り、二七市通りあたりに繋がっていたり、伊賀川に繋がっていたりという結節点にりぶらがある。
- ・りぶらのあり方にはものすごい可能性があり、現状はもったいない。りぶらからアクションプランを考えていくのは良い。
- ・その時に、都市再生推進法人や PPP エージェントなど、市からの権利を受けているものが機能しないといけない。公共空間や周辺の公共の都市資産を活用しながら利用を高める。
- ・なおかつ、そこで上げた収益の一部を公共空間の維持管理に当てていく必要がある。
- ・山田氏の話にあったように、店の前には必ず道がある。道と店が相まって豊かな公共空間を作ることがとくに重要。
- ・カフェやバルは実は公共空間よりも公共性の高い施設である。
- ・そういった民間型公共施設、それに公共型公共空間を合わせて考えると、道と店舗の間には境目がないといえる。これがプレイスメイキングの重要な概念。
- ・道として、歩道とオープンカフェの境目がないような、例えば道が店舗の中の客席と変わらないようなお互いがお互いの糊代のような空間が創出できないか。
- ・連尺通り、二七市通りの道の使い方を変え、りぶらに公共性の高い民間施設ができることで、「3. 旧東海道エリア」は回復する。
- ・りぶらの東側に広大に続く駐車場は非常にもったいない空間。ここに QURUWA の動線をどう引き込むのかは要検討。
- ・この脇の土地が一番価値の高い土地。民間施設なのか、公共施設なのか、その両方なのかは分からないが、駐車場の土地利用の仕方を変えることで、ここから豊かな公共空間につながるのではないか。

>旧東海道エリアについて

[長谷川]

- ・りぶらの周りはブロックが大きいので、籠田公園の方から向かっていくと、急に歩いていくのが辛くなる。ハードウェアとしてはそこを改善する必要がある。

- ・シビコ前の広場もだが、りぶらの前の駐車場も籠田公園よりも大きい。あのまま公園にしても持て余してしまうのではないか。
- ：福岡市庁舎の前を芝生広場にする社会実験を見たが、広場が大きすぎて誰も人がいなかった。小さなとりつきしろを組み込む必要がある。

[山田]

- ・「3. 旧東海道エリア」の3-1と3-2はお互い引き立てあう関係。
- ・3-1はシビコが肝になっている。建物の真ん中の駐輪場部分は行政の土地で、そこうまく使っていく必要がある。
- ：リノベーションスクールの公開プレゼンテーションで利用。
- ・りぶらのオープンスペースと合わせて、企画課と一緒に考え、うまく活用していければ良い。

[天野]

- ・最後に「3-2. 旧東海道エリアのりぶら側」から「4. 伊賀川エリア」「3-1. 旧東海道エリアの籠田公園側」、「1. 駅前エリア」「5. 乙川エリア」の方をどう繋げることができるかというところを各メンバーから一言コメント頂きたい。

[泉]

- ・りぶらの前のオープンスペースやCA、乙川も含め、やはりRFエリア内には公共空間が多い。
- ・そのため、使う人とマネジメントする人がどこでも必須であり、使う人もいろんなプログラムや社会実験等が必要。
- ・それをマネジメントしていく人が自ら稼いで公共空間を豊かにしていくことを考えると、第3者が入るというよりは、地先の地権者や事業者がQURUWAの各エリアでやっていくというのが大事。
- ・りぶらはまさに二つのエリアが交わる交点になっているので、きちんとマネジメントしていくことで、伊賀川と連尺通りを変えるインパクトを与えられる。
- ・一番ベーシックなところとして店舗前の店先からを考え、そこからどう広げていくのか考えることを検討できるとよい。

[長谷川]

- ・ランドスケープデザイナーの立場から話すと、QURUWAの1周約3キロの大きさは、ほどよいとも少し大きいとも言える。3-2のエリアは其中で現在すでに大きい集客をしているエリアであり、これが周囲に波及していないのはもったいない。
- ・CAの検討は、現在QFVなどを元にビジョンを描きながら始まっているが、りぶらの辺りでもビジョンを共有していくことが重要。
- ・その場所のできることをすべきであって、りぶらのできることを河川敷でやる必要はない。
- ：コンサートでも場所ごとにスケールも規模も異なるのが普通であり、そこから特色を出していく。
- ・ひとつづきの場所では、お互いがお互いを補完し合い、必要としている環境になるのが良いので、常に隣り合っているのが何かを考えることが大切。
- ・自分は岡崎へ来たばかりだからかもしれないが、今はりぶら単体ではなく、その周辺、エリアの個性をどうしていくかを考えるとQURUWAの輪郭が少し浮かび上がると予想。

[山田]

- ・QURUWAの回遊性を高めるためには、道路幅や車の交通などを一緒に考えていくことが重要。
- ・「3. 旧東海道エリア」は、車がよく通っているため、旧東海道だということが全然わからない。

- ・そういった歴史性を現代的にどう表現できるか、景観などどのように繋げていけるかを考える必要がある。
- ・りぶらと籠田公園がつながるように活動を横に繋ぎ、全体でハードとプログラムをセットしていくことをゴールにしていきたい。

[藤村]

- ・この会では仕組みやコンテンツの話が重要だが、ランドスケープデザイナーの長谷川さんが参加されたことでハードのことが議論できるようになった。
- ・例えば、抵抗なく歩ける距離と呼ばれる 300m を繋いでいくと歩きやすくなると言われるが、そういうことを考えていく中でユニバーサルデザインや高齢者がどう歩きやすい仕組みができるかを考えることが大事。
- ・そのような視点を加えることで、福祉政策と観光政策を別々に考えるのではなく、一緒に考えることができる。
- ・歩くことが介護予防につながっていき、公園の利活用の中に介護予防の仕組みも入ってくることを予想。

[清水]

- ・おとがワ！ンダーランドで実践を行ったことで、河川としてこんな空間を使えればとイメージが出てきたので考えやすくなってきた。
- ・議論の焦点は歩いて楽しいまち。それをもとに、QURUWA がぐるっと岡崎の中心部に骨格のように入ってくる。
- ・それにより、色を塗っていない真ん中辺り（康生）や、周辺（祐金・菅生、六供・花崗、材木・松本）の波及エリアに対する民間の投資が起りやすくなるのではないか。
- ・乙川リバーフロント地区整備計画では、表面的には約 100 億の投資がされているが、それが乙川リバーフロント地区全体に QURUWA 戦略により、いい影響を与えることができれば、かつての中心地だった康生全体の経済が浮上すると予想。
- ・自分は段々と計画にリアリティを感じ始めるようになった。
- ・歩くことで健康寿命も延びて、使われてなかった中央緑道が使われ、体操したり、孫と遊んだり、長生きする、寝たきりにならない。いかに楽しく生きて、いかにぽったり死ぬか、まちなかに住むって楽しいなというまちになってほしい。
- ・岡崎の製造業に偏った財政状況には注目すべきだと考えている。危険性が高い財政状況。
- ・観光産業がそれを補完する産業になりうる、と考えている。

[りた 天野]

- ・次回は 12 月 6 日（火）13 時 00 から。今回と同じ、市役所分館 3 階大会議室にて開催予定。

以上

■配布資料

資料 1：乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議の位置づけ

資料 2：QURUWA | 公共空間活用ポテンシャル MAP

資料 3：おとがわプロジェクト | アクションプラン

